

# 復興・創生に向けて セミナーを開催しました



## プログラム

開催日:平成 28 年 12 月 5 日(月) 会場:コラッセふくしま

主催:環境省 後援:福島県教育委員会

13:00~13:10	開会・主催者挨拶
13:10~14:10	講演 不安を払い、希望を付与する放射線総合教育 講師:佐瀬卓也先生(自然科学研究機構)
14:10~15:20	講演 復旧・復興から創生へ(本宮市におけるアドバイザー活動の経験から) 講師:野口邦和先生(日本大学)
15:20~15:30	休憩
15:30~17:05	パネル討論・意見交換
17:05	閉会・アンケート記入

ファシリテーター:神谷研二氏(福島県立医科大学/広島大学)

パネリスト:原田眞理氏(玉川大学)、秋津裕氏(京都大学)

## 講演の内容



佐瀬卓也先生

○現在求められる放射線教育

→事故から5年が経過した現在は子どもたちが風評被害を理解し、乗り越えられるような教育が望ましいです。

○風評を乗り越えるには

→科学的根拠をもって不安を払拭することが大切であり、風評被害に対応するための正しい知識を身に付ける学習を実践しています。

○今後の復興に向けて

→風評に打ち勝つところの育成と健康寿命の伸長により、心身共に鍛えられた将来を担う子どもたちを育成することが大切です。

○中学校・高校での講演活動

→放射能と放射線について正しく理解することにより、放射線への理解も進み誤解や疑問が解消します。

○本宮市で実施している内部被ばく線量と外部被ばく線量検査について

→平成 23 年から測定を続けています。結果を見ると内部被ばく線量、外部被ばく線量ともに年々低下しています。

○本宮市内の農産物について

→農産物については、きのこや山菜等一部セシウム濃度の高いものもありますが、年々濃度は下がっています。



野口邦和先生

## パネル討論・意見交換の内容・様子

3つのトピックに沿ってパネル討論を行いました。

### 教育機関での講演等の具体事例の紹介、 生徒や住民の不安軽減への取組

- ・小中学生へ実施したアンケート結果では、約3割の生徒が「福島は嫌われているので不安」と回答しました。これからの対応策を先生方と模索し、授業を行っています。
- ・福島県は放射線教育への取組に積極的ですが、他県では不足している現状があります。
- ・正しい情報を提供するだけでなく、自分で考え判断できる力を促す教育が必要です。
- ・子どもの年齢が低いほど放射線に対し先入観のない幼児・初等教育において放射線教育を行うことが望ましいと思われま。低学年であるほど子どもと親の距離が近く、子どもから家庭への情報伝達も期待できます。

### 福島の風評被害への対策、 こころのケア、新たな試み

- ・中高生には進学、就職、結婚等のライフイベントで遭遇する可能性のある風評への備えとして、原発事故関連の質問に対する回答や対策を考えるシミュレーションを取り入れた授業を行っています。
- ・大規模災害によるトラウマ反応について、継続した支援が必要です。
- ・教育自体は教職員に委ねられていますが、放射線に関する内容は出前授業等、外部講師を活用する等、教育現場の負担軽減の取組が必要と思われま。

### 復興、創生に向けて今後の課題 (まとめ)

- ・子どもたちと保護者が少しでも疑問を減らし、現状を把握するためには、専門家を介して正しい知識を得ることが大切です。各市町村の健康増進担当と学校教育担当の共催でお話会を開催する等が望ましいです。
- ・住民から信頼されている住民から直接放射線に関する質問を受ける医師や技師等の医療者への放射線教育を行っていくことも大切であると思われま。



### セミナー参加者の声

本宮市の5年間の経緯を知ることができ、被ばく線量や食品等安全であり、安心して生活できることが資料等で良く分かりました。担任している子どもたちにも伝えたいと思います。

放射線に関わる仕事をしていますが、まだ分からないことも多く、不安な部分もありましたが、講演を聴き前向きになれそうな気がしました。正しい知識を子どもたちに伝えていくことが大切だということが分かりました。

